

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	インテリアデザイン論	担当教員	櫻木耕史		
学年学科	3年 建築学科	前期	必修	1 単位	
学習・教育目標	(D-2) 100%				
<b>授業の目標と期待される効果：</b> 本授業では以下に示す点について達成し、インテリアを論理的に捉える視点を身に付ける ①屋内空間の原理・概念に関する基礎知識を習得する ②屋内空間の構造・創造に関する基礎的知識を習得する ③屋内空間の設計方法に関する基礎的知識を習得する ④建築作品、建築家に関する基礎的知識を習得する		<b>成績評価の方法：</b> 中間試験 100 点＋期末試験 100 点とし、総得点率 (%) によって成績評価を行なう。 <b>達成度評価の基準：</b> 授業中に説明した内容を試験で出題し、6 割以上の正答レベルまで達していること。なお成績評価への重みは、①～④を各 25% とする。 ①屋内空間の原理・概念に関する問題をほぼ正確(6 割以上)に解くことができる ②屋内空間の構造・創造に関する問題をほぼ正確(6 割以上)に解くことができる ③屋内空間の設計方法に関する問題をほぼ正確(6 割以上)に解くことができる ④建築作品、建築家に関する問題をほぼ正確(6 割以上)に解くことができる			
<b>授業の進め方とアドバイス：</b> 建築の内部空間を主体として、インテリアデザインの理論を理解、学習する 適宜作図やグループワークにより理解を深める より理解を深めるため、授業において提示した建築物、建築家に対して自ら積極的に調べ、学習する					
<b>教科書および参考書：</b> 図解 ニッポン住宅建築—建築家の空間を読む (尾上亮介、竹内正明、小池志保子 (著) 学芸出版社 2008.02)					
授業の概要と予定：前期					AL のレベル
第 1 回：総論					C
第 2 回：外部に開かれた空間					
第 3 回：中庭のある室内空間					
第 4 回：外部環境への適応					
第 5 回：都市空間と屋内空間 1					
第 6 回：都市空間と屋内空間 2					
第 7 回：あいまいな境界をもつ屋内空間					
第 8 回：中間試験					
第 9 回：ヴォリュームと形態操作					
第 10 回：領域の分化					
第 11 回：人々の行動と屋内空間の関わり					
第 12 回：造形が特徴的な空間					
第 13 回：インテリアと家具 1					
第 14 回：インテリアと家具 2					
期末試験					
第 15 回：インテリアデザインの思想					

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	屋内空間の原理・概念に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	屋内空間の原理・概念に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	屋内空間の原理・概念に関する問題を解くことができない。
②	屋内空間の構造・創造に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	屋内空間の構造・創造に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	屋内空間の構造・創造に関する問題を解くことができない。
③	屋内空間の設計方法に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。	屋内空間の設計方法に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	屋内空間の設計方法に関する問題を解くことができない。
④	建築作品、建築家に関する問題をほぼ正確(8割以上)に解くことができる。	建築作品、建築家に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。	建築作品、建築家に関する問題を解くことができない。